

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



【特集1】

島根大学 開学70周年

受け継がれる伝統と歴史

vol.
shimadai

42

2019.10

[特集2]認知機能評価に関する共同研究

70
ANNIVERSARY

島根大学 開学 70周年記念特別特集

—受け継がれる伝統と歴史— 70th Anniversary

島根大学は昭和24年、当時の松江高等学校、島根県師範学校、島根青年師範学校を母体に発足し、以降島根農科大学の移管や島根医科大学との統合を経て6学部を要する地域の総合大学として70周年を迎えました。その歴史や歩みを振り返り、地域とともに発展する島根大学の未来を考えていきます。

写真で見る島根大学の歩み



島根県師範学校男子部(大正13年)

② 島根師範学校

島根県における学校教員を養成する教員養成機関として設置されました。その歴史は古く、明治8年の「島根県小学校教員伝習所」にその端を発します。数回にわたる変遷を経て、昭和18年4月に設置された官立島根師範学校へと引き継がれていきました。現在の教育学部の前身校です。



島根師範学校男子部図書館



校門と講堂

① 松江高等学校

松江高等学校は大正9年11月に全国で17番目の高等学校として、現在の島根大学松江キャンパスに設置されました。大正9年に敷地整備工事が開始され、大正10年12月に本館が竣工、翌年1月より授業が開始されました。当時の建物の大半は島根大学に引き継がれ、昭和40年代後半まで使用されました。



化学の授業風景



県立農林専門学校正面

③ 県立農林専門学校

昭和22年創設の島根県立農林専門学校は、昭和26年に県立島根農科大学に移行し、校舎は、現在の島根県立松江農林高校にありました。昭和40年、国立に移管され島根大学農学部になり、平成7年には、島根大学生物資源科学部となり、現在にいたっています。



体育祭後の仮装行列(昭和22年10月)

vol.42 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①教育学部 橋爪 一治 教授 11
- ②医学部 木村 かおり 助教 13
- ③総合理工学部 新城淳史 准教授 15
- 特色ある教育 17

- 社会で活躍する卒業生
- 島根トヨタグループ 村上 亮介 さん 19
- しまだい便り 21
- しまだい's サークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾



医学部の本館棟と附属病院棟

⑤ 島根医科大学

島根医科大学は、一県一医大構想のもとに、昭和50年10月に設置され、現在の島根大学医学部の前身にあたります。昭和54年4月には、医学部附属病院が設置され、平成11年4月には、看護学科が設置されました。平成7年2月には、島根県で唯一の特定機能病院として指定をうけ、中核的医療機関となっています。敷地は、出雲平野の南東部にあり、周辺には、多くの古墳や『出雲国風土記』にも記載されている奈良時代の古代寺院跡が残されています。



自然科学実験研究室と人文社会科学研究室

④ 島根大学文理学部

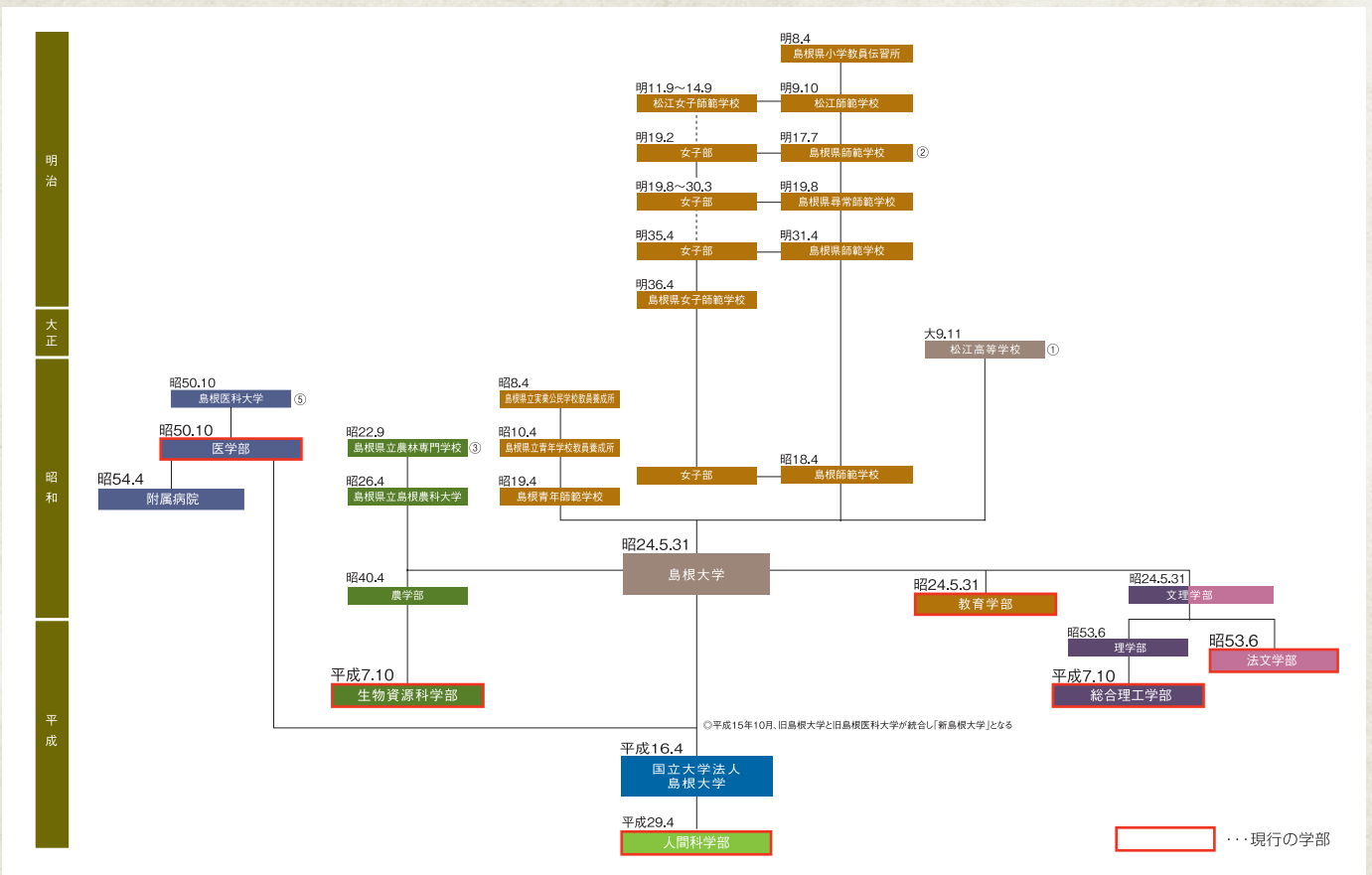
昭和24年5月の島根大学発足時の学部の1つとして、昭和53年6月17日に法文学部と理学部に改組されました。文学部(哲学教室、地域社会教室、歴史学教室、東洋文学・語学教室、西洋文学・語学教室)法学科(法学科教室)理学科(数学教室、物理学教室、化学教室、生物学教室、地質学教室)からなっていました。



島根大学文理学部自然科学実験室 (昭和35年3月)



島根大学学生食堂 (昭和34年)



人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2019.10 vol.42

【特集1】

島根大学 開学70周年記念特別特集

受け継がれる伝統と歴史 01

【特集2】

認知機能評価に関する共同研究 05

【特集3】

無人駅魅力化プロジェクト 07

平成から令和へ、この10年の島根大学

2009年（平成21年）島根大学創立60周年記念事業後、10年。人間科学部の設置、地（知）の拠点大学における地方創生推進事業、地方大学・地域産業創生交付金事業の展開など島根大学は加速した改革を進めています。

島根大学はこれからも地域との協創を強化し、「地域に生き、世界に輝く大学」を実現していきます。

2014（平成26年）

10周年を機に新たな目標へ進む 法人化10周年記念式典開催

10月に教職員、同窓会や講演会、企業や自治体、地域の方々など約130名が出席し、国立大学法人移行10周年を祝いました。

各界からの祝辞を頂いたほか、記念講演、島根大学に貢献された方々の学長表彰などが行われ、新たな門出を祝う式典となりました。



市民と学生の気軽な交流の場 学生市民交流ハウス完成

学生と地域の方々の交流の場として「学生市民交流ハウス」（愛称FLAT）が完成しました。COC事業の一環として総合理工学部の学生有志が設計しました。愛称の通り、誰でもフラットな関係でいられるように、木をふんだんに用い、平屋造りでバリアフリーにも配慮した施設で、音楽会や読書会などが催されています。



2013（平成25年）

地域協創型人材を養成する 島根大学COC事業採択

平成25年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されました。大学として「教育」、「研究」、「社会貢献」の分野で地域の課題を解決できる人材の育成、地域課題の解消につながる研究、地域に学び地域活性化に関する活動の推進などを進めています。

「知の拠点」としての機能を充実 附属図書館リニューアル

4月4日にリニューアルオープン記念式典を挙行了しました。ハード面では耐震補強や慢性的な不足状態にあった資料の取容量を増やす構造を取り入れたほか、ソフト面として電子ジャーナルや電子ブックやデータベースの充実に力を入れたリニューアルで、学生や教員はもとより、地域の方々にも利用頂きやすくなりました。



2009（平成21年）

学生の修学環境の整備を目的とした 大学ホール竣工

島根大学憲章に掲げる目標を達成するための一環として整備が進められ、多目的ホールとしての機能を持つ大学ホールが10月に完成。旧教養講義室棟1号館100番教室を取り壊し新築されたもので、教養講義室棟1号館・2号館の中央部に位置します。現在でも、教養教育施設の要として、講義・講演・ミニコンサート等多目的に利用されています。構造は鉄骨鉄筋コンクリート1階建て（一部2階）延べ床面積830㎡ 席数380席のホール、ロビー、男女トイレ、控室を配置しています。



2011（平成23年）

島根県の地域医療の向上に資する 附属病院新病棟の完成式典を挙げる

6月11日に完成を間近に控えた医学部附属病院の新病棟の完成式典が行われました。島根県選出の国会議員をはじめ、文部科学省、島根県、医師会関係者ら約150名が出席し、テープカットや見学会、祝賀会等が実施されました。新病棟には、高機能な救急部や集中治療室、出雲大社の遷宮時の檜皮炭を天井に敷き詰め調湿に用いている緩和ケア病棟、世界で初めて病棟全体がディック・ブルナー氏のキャラクター「ミッフィー」でコーディネートされた小児センターが整備されました。



島根大学10年の歩み

2009(平成21年)

大学ホール竣工
旧奥谷宿舍竣工記念式典
医学部附属病院開院30周年記念式典挙行

2011(平成23年)

附属病院新病棟完成式典
広島オフィス開設
学生寮竣工
陸上競技場改修

2012(平成24年)

生物資源科学部改組
総合理工学研究科博士前期課程改組

2013(平成25年)

COC事業採択
附属図書館リニューアル
島根大学・
寧夏大学国際共同研究所図書館開館式を開催
医学部附属病院再開発完成記念式典挙行

2014(平成26年)

法人化10周年記念式典開催
学生市民交流ハウス完成

2015(平成27年)

COC+事業採択
学生食堂リニューアルオープン

2016(平成28年)

ふるさと魅力化フロンティア養成コース始動
「障がい学生支援室」設置
コーチ理工大学と大学間協定締結
大学院教育学研究科に教育実践開発専攻
(専門職学位課程)を設置、
大学院医学系研究科看護専攻を博士課程に改組

2017(平成29年)

人間科学部設置
キグチテクニクス共同研究講座設置
汽水域研究センターから
エスチュアリー研究センターへの改称と改組

2018(平成30年)

地方大学・地域産業創成交付金事業採択
総合博物館オープン
総合理工学部、生物資源科学部改組
総合理工学研究科及び生物資源科学研究科を
統合し、自然科学研究科博士前期課程設置
自然災害軽減教育研究センター設置
数理・データサイエンス教育研究センター設置

2019(令和1年)

教育学部附属義務教育学校 開校
島根大学開学70周年記念事業を実施

2018(平成30年)

先端金属の聖地・島根を目指す 地方大学・地域産業創成交付金事業採択

島根大学が参画し、島根県が申請した内閣府「地方大学・地域産業創成交付金事業」に「先端金属材料グローバル拠点の創出-Next Generation TATARA Project-」が採択されました。島根県の基幹産業である「たたら製鉄」の伝統を受け継ぐ特殊鋼関連産業及び金属材料に関連する研究を発展させることで、島根県を「先端金属材料の聖地」としていくことを目指し、様々な事業が5年間にわたり展開されています。



2019(令和1年)

地域に生き世界に輝く大学の実現を目指して 島根大学開学70周年記念事業を実施

島根大学は、旧制松江高等学校、島根師範学校、島根青年師範学校を母体として、1949年(昭和24年)5月31日に、文理学部、教育学部の2学部をもって発足し、現在では6学部5研究科からなる総合大学として、今年度開学70周年を迎えました。この記念事業として10月に記念式典を行うほか、島根大学愛唱歌の制定、記念ロゴマークの制定などを行い、地域に生き世界に輝く大学の実現を目指していく姿勢を新たにしています。



2015(平成27年)

地域未来創造人材の育成を加速 COC+事業採択

地域の新たな雇用や産業の創出、人材育成などを目的に新設された文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COCプラス事業)に採択されました。平成25年に採択されたCOC事業の後継事業で、島根大学が県内の高等教育機関や地方公共団体、企業等と協働し、地方創生事業を推進するもので、共同研究等を通じて、地域産業の発展に寄与し、学生に魅力ある就職先の創出することや、地域が求める人材養成のために教育カリキュラムの改革を行っています。



2017(平成29年)

39年ぶりに新設学部が開設 人間科学部設置

4月に島根大学6番目の学部として「人間科学部」が開設されました。学部は「心理学コース」、「福祉社会コース」、「身体活動・健康科学コース」の3コースから構成され、広く地域コミュニティを支える人材を育成することを目的としています。人間科学部を核として、島根大学の6学部一体となって「人」をキーワードに教育・研究を進めています。



認知機能に関する生体マーカーの開発に着手

4者共同で認知症の早期発見、予防を目指す



小野田講師の研究風景。
MRI画像をAIに学習させ、
今回のプログラムを開発。

2025年には、高齢者の5人に1人になるといわれている認知症。だれもがかかりうる病気の一つですが、早期に発見し、対策を行うことで症状を改善したり、進行を遅らせたたりすることもできます。島根大学は、島津製作所（京都市）などとの共同研究で、軽度認知障害（MCI）の早期発見を狙った生体マーカーの開発と、予防に効果的なアプローチのあり方などを探っています。

脳の活性で認知機能向上 効果の数値化を狙う

MCIは、認知症の一手手前の状態で、物忘れのような記憶障害が出るものの症状は軽く、日常生活にも大きな支障がありません。

適切な対策や治療を行うことで、認知症への進行を防いだり、発症を遅らせたりすることもできると言われています。島根大学は、全国に先駆けて約30年前から脳ドッグ検診を導入。脳内の血流の変化や、脳の萎縮度などを測定、データを蓄積するなどして、早くから認知症予防の研究を進めてきました。そこで、近赤外線を用いて脳内の血流量の変化を測定する技術（機能的近赤外分光法・fNIRS）を持つ島津製作所や、全国で介護事業を展開しているメディカル・ケア・サービスなど4者による共同研究に着手しました。

研究では、MCIの患者を対象に認知機能の改善を狙ったプログラムを6ヶ月間実施。前後で機能的MRI検査やfNIRS検査、認知機能検査などを行い、プログラムの効果の数値化を狙います。

島津製作所の上田社長が 医学部を見学

7月16日には島津製作所の上田輝久社長が医学部を訪問。共同研究についての進捗報告を行ったほか、附属病院の見学、服部学長、井川病院長らと意見交換を行いました。(詳細はP21でも紹介しています)



以前から島根大学とは共同研究をさせていただいており、これまでの新生児マスキリーニング、今回の認知症と「赤ちゃんから年配の方まで」幅広く共同研究をさせていただいている。MRI関係の画像のデータを用いた認知症の取組みもそうですが、こういったものを早く結果を出して、社会実装していくことの重要性を感じています。

※新生児マスキリーニング…先天性代謝異常症等検査



株式会社 島津製作所
上田 輝久 社長



運動をベースに脳トレを取り入れた「シナプソロジー」というプログラムは、脳を活性化させる効果があるとされ、各地の介護現場などで導入されています。その効果は専門家らによって検証されているものの、客観的な指標はありませんでした。医学部神経内科の小野田慶一講師は、「脳活動の変化量が認知機能の変化と対応しているかどうか分かり、定量的な認知機能の評価が可能になるのでは」と考えています」と期待します。プログラムの介入は今春からスタート、7月には島津製作所の上田輝久社長らが大学を訪れ、研究の進捗状況等の意見交換を行いました。

予防アプローチからAIを 活用した早期発見も

島根大学は松江市の統計解析会社ERISSAと共同で、AI(人工知能)を活用して認知症を早期発見する画像診断法の開発も進めています。脳の萎縮度を定期的に調べた国内外のMRI画像

約2000人分を集めてAIに学習させ、何年後に何パーセントの確率でMCIから認知症に進むかを算出するプログラムも編み出しました。小野田講師は、「例えば脳ドックでMRI検査をした結果をこのプログラムに取り込んで、認知症のリスクを評価することも技術的には可能です。今回の共同研究では、病院ではなかなかキャッチしにくい認知症の前段階の人のデータを集められるのが大きなメリット。4者それぞれの専門性を生かし、認知症の早期発見、進行予防につなげていければ」と話します。



シナプソロジーの様子。

江津市・都野津駅の魅力化を目指して

学生と高校生が協働するプロジェクト始動！



2019年6月、江津市にあるJR山陰本線の都野津駅の魅力向上を目的に、島根大学の学生と江津高校の生徒が連携して地域振興策を策定するプロジェクトが始動しました。駅を活用した地域振興に関するアイデアを提案するために活発な議論を行い、精力的な活動を行っています。

若者らしいアイデアを 地域振興につなげる

このプロジェクトは、島根大学とJR西日本米子支社が締結している包括的連携協定に基づくもので、2018年度から無人駅の魅力化に取り組んでいます。山陰地域には約90の無人駅がありますが、昨年度は、出雲市内の小田駅、田儀駅についてカフェや子育てスペース

の設置などを提案しました。今年度は江津市の都野津駅をテーマに、普段この駅を利用することが多い江津高校の生徒と一緒にアイデアをとりまとめることになりました。

プロジェクトの初会合は江津高校で行われ、島根大学の学生4名、江津高校の生徒9名が参加し、課題やどのような可能性があるかについて話し合いました。都野津駅を通学で利用する江津高校生からは「列車を待つ時間を有効活用したい」「勉強ができるような環境が欲しい」といった地元高校生ならではの意見が多く出ました。また、江津市出身の教育学部の三浦さんは「江津市や地元の都野津町の抱える様々な地域課題を解決する場として駅の活用方法を考え、列車の乗降以外の価値を見出していきたい」と意気込みを語ります。現在、島根大学の学生のみで毎週行っている定例ミーティングと、江津高校の生徒も参加する月1回の合同ミーティング

VOICE

対象駅が自分の地元だったこともあり、活動に参加しました。プロジェクトでは主に定例ミーティングやワークショップの設計、司会や進行を担当しています。活動を通じて、多様な立場の人との連携、役割分担をどうするかなどを考える力がつき、将来に活かせると思います。



教育学部
初等教育開発専攻 3年

三浦 彩花 さん

高校生や社会人の方など、普段の生活では決して関わることのない人たちとの協働がとても新鮮です。学校での学びとは違い、絶対に正しいという「解」が存在しないので、どれだけ地域の方々の想いをくみ取りながら、みんなが納得できるかというのがとても大切だと感じています。



教育学部
共生社会教育専攻 3年

酢谷 大洋 さん

高校生チームは、駅を利用する生徒の立場で意見を出すことと、地域の方々へのヒアリング調査を主に担当しています。大学生や社会人の方々は自分の想いや考えを伝えるプレゼンテーションが上手で、とても勉強になります。この経験を活かして、将来は地元で働きたいと考えています。



江津高校2年

道山 和波 さん

基本的に学生主体で企画してもらい、当社の考えを伝える等のアドバイスをしています。ミーティングでは大学生のリードにより、活発な意見交換が行われており、若いパワーを感じています。活動を通じて、地域の事や山陰の企業にさらに興味を持ち、地域を盛り上げてほしいと思います。



JR西日本 米子支社
山陰地域振興本部 主査

植弘 華奈江 さん



2



3



4

1.島根大学でのワークショップの様子。都野津駅で地域住民の方を対象におこなったアンケートをもとにプロジェクトの方向性について意見を出し合いました。2.実際に都野津駅を訪れ、駅舎や駅周辺地域のフィールドワークを行いました。3・4.江津高校で6月に行われた初会合の様子。

で、駅舎の活用策を議論しています。地元の方へのアンケート結果や江津市の作成した総合計画・ビジョンなどを参考に、年内に地域振興策をとりまとめ江津市とJR西日本支社に提案する予定です。

この取り組みは、島根・鳥取で活躍したい学生が所属する特別コース「COC人材育成コース」の正課外教育プログラムとして位置づけ、学生の地域での学びを深める機会の一つとしています。大学での学びを活かしながら、地域で様々な方たちとの協働から、アイデアを生み出し、実践へとつなげていくものです。様々な立場の「ひと」を通して多角的に現状をとら



え、「地域のありたい姿」と「そこに至るための過程」考え抜き、行動する力を身につけることが期待されています。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、100の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身国

カメルーン

ンゴラン ジレ ニュイキ

NGORAN GILLES NYUYKI さん

(総合理工学研究科 2年)



教育と文化それぞれの面で
様々な収穫が得られた留學生生活

母国では鉱物資源に関する政府機関で働いていました。日本は世界で3番目の経済大国で、見習えるところがあるのでと考え、ABEイニシアティブ(※)を利用して留学しました。島根大学では母国の砂金鉱床の分析を行っています。どのような岩石から金が出やすいのか、どこに濃集しているのかなど、その特徴が分かれば、将来的に金の産出量増加にも繋がる可能性があります。大学には分析のための設備が整っていますし、先生方もとても丁寧に教えてくださいます。授業もすべて英語で受講できるため、日本語があまり話せない私にとってはとても助かりました。様々な知識を得られたことはもちろん、日本人の時間に対する意識やチームで仕事を進めていくことも、自国に持ち帰ってぜひ活かしていきたいと思いました。



1. 松江市の須々海岸でのフィールドトリップの様子。
2. 研究に励むンゴランさん。

※ABEイニシアティブ…JICAが実施する、アフリカの若者のための修士課程教育とインターンシッププログラムのこと。

TO



留学先

アメリカ (アーカンソー大学)



いざわ とおる
井澤 亨 さん
(総理工学部 建築・生産設計工学科 4年)

日米双方の学びを知り 自身の専門性を深める

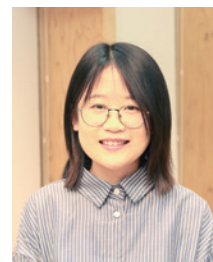
所属していた英会話サークルの先輩から留学体験談を聞き、語学だけでなく専門分野の勉強もしたいと思い、建築学部のあるアーカンソー大学を選びました。アメリカでは授業数が少ない分、一つひとつ時間をかけて学ぶことができます。特に印象的だったのが設計の授業で、日本では耐震などの法律を優先して設計するのに対し、アメリカでは造形力を重視し、後から構造を付け加えていく教え方でした。日本とアメリカの両方で同じ分野を学べたことで、双方の良いところを活かした設計を考えていけると感じました。授業の最後に行う発表では多くの学生が聞きに来てくれ、優秀作品にも選ばれるなど、認められたことがうれしかったです。卒業後は大学院に進学し、都市計画についての学びをさらに深めていきたいです。

FROM



出身国

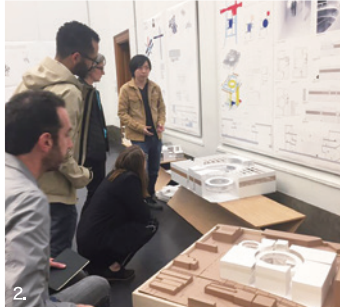
中国 (東北林業大学)



コウ・ブンセイ
考 文 静 さん
(法文学部 科目等履修生)

多くの友人に恵まれ 交流の大切さを実感

母国の大学で日本語を学び始めてから日本語の美しさに惹かれ、実際に日本へ行ってみたいと思うようになりました。私の実家がある山東省は海の近くなので、島根での生活にはすぐに慣れることができました。日本人のチューター学生と出会い、そこからチューターの友人など、どんどん友人の輪が広がっていききました。日本に来た当初、日本語での会話がほとんどできなかったのですが、たくさんの方との交流を通じて、日本語での会話がスムーズにできるようになりました。母国では良い成績をとるために勉強漬けの日々でしたが、日本に来て、人との交流の大切さやそこから学べることの多さに気付かされました。将来、日本と関わりのある職につけるように、帰国後も日本語の勉強を続けていきたいです。



1. 秋学期の最終発表会で展示した井澤さんの作品。2. 春学期の最終発表会の様子。多くの学生が発表に興味を持って聞きに来てくれたといいます。



1. 授業で、自分のお気に入りの場所について紹介したときのコマ。2. 新潟旅行の際に、新潟市の朱鷺メッセから撮った街並み。





島根大学の
研究・地域貢献
事業紹介

1

教育学研究科

最新機器を活用した 熟練の技の疑似体験で 伝統技能習得を目指す

記録した職人の技能を
3感覚で体験して習得

神社や仏閣などの建築・修繕を行う宮大工は、建物を組み立てる際に木材同士の接合部に釘や金物などを使わず、木材自体を加工してかみ合わせる「木組み」という伝統的な工法を用います。強度や負担のかかる方向などを緻密に計算して木材を加工する必要があるため、高い知識に加えて豊富な経験が求められます。しかし日本古来の建築物を守ってきた宮大工の後継者不足は深刻化しています。そこで橋爪教授は、一流の宮大工職人の視覚や力覚などを360度の映像や力覚デバイスで記録。VRなどの再生装置で熟練の技能を疑似体験することで、

日本の文化や生活に根差している伝統産業の多くは近年、職人の高齢化や後継者不足が深刻化しています。教育学研究科の橋爪一治教授は、熟練の宮大工の木材加工技能の作業動作を分析。VR（バーチャルリアリティ）などの最新技術を用いて、誰もが一定の技能を身に付けられる仕組み作りを目指しています。



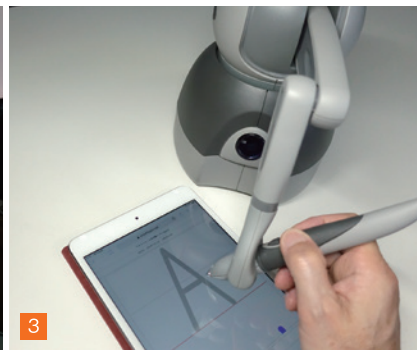
PROFILE

教育学研究科 教育実践開発専攻

橋爪 一治 教授

はしつめ かずはる

公立の小中学校で約25年間、教員をしていました。教育学の修士に加え、社会人学生として博士(工学)の学位も取得。「工学を教育に」というのが私のテーマになりました。大学の研究者としてはまだ若輩者ですが、今後に期待して下さい(笑)。



1.韓国で押して使う鉋(写真手前に置かれている)の動きなどを記録する様子。2.熟練技能者がノコギリで板を切断する動きを記録している様子。3.アルファベットの書き順を再生・保存できるアプリと小型力覚デバイス。4.附属図書館で昨年開催した、島根県が全国に誇る伝統技能「木匠展in島根大学」のギャラリートークの様子。今年も10月に開催予定だ。

技術の習得を目指す方法を考えています。

「『見て覚える』という徒弟制度の世界では、技術習得は至難の業でした。でも誰もが一定期間に一定レベルの技能を身に付けられる仕組みが出来たら、若者がこの業種に挑戦する垣根が下がるのでは、と思ったのが研究を始めたきっかけです」と橋爪教授。既に、アイカメラで熟練技能者の視線を追う研究を実施。板を切断する際に、素人は気に留めないような注意を無意識に行うことが、極めて正確な切断技術を生み出していることが分かりました。「ヘッドマウントディスプレイや精密な力覚デバイスなどの最新技術を使うことで、記録した一流熟練者の技術を聴覚、視覚、触覚等の感覚で体験できると考えています。『上手くできた』という感覚を味わうことは、様々な技能を習得する意欲アップにもつながるはずです」。

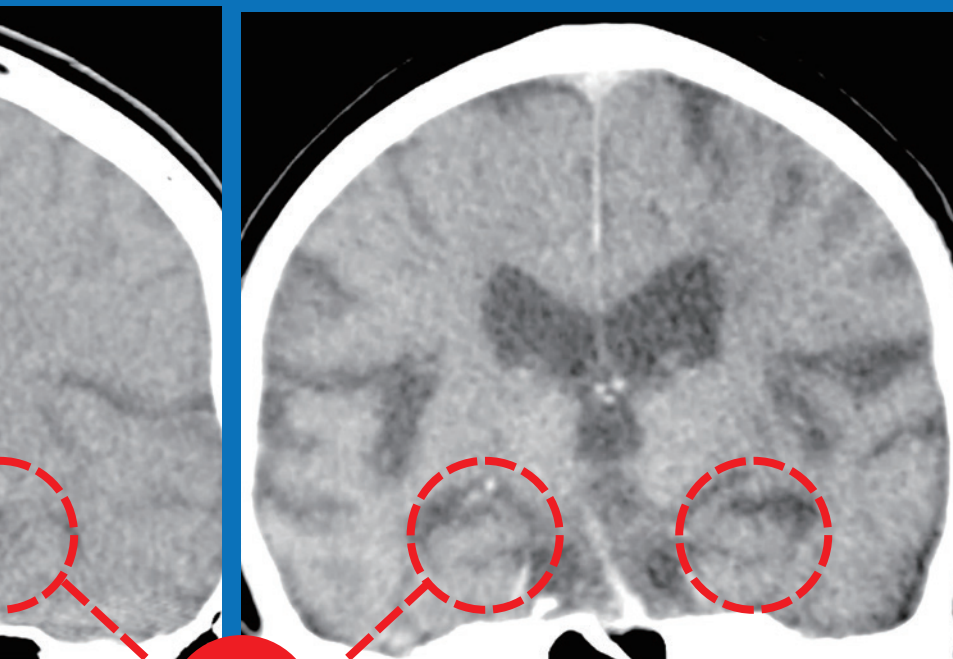
書字障がい児の指導にも VRと感覚の融合を活用

運動機能を工学的に解析する研究手法で、文字を書けない特性のあ

る子供へのアプローチも試みています。「あまり知られていませんが、知的にも視覚にも障がいがなく、努力もしているのに、文字を書くことが困難な状態(ディスグラフィア=書字障がい)の子供がいます。文字で表現するという行為は、パソコンなどでできるかもしれませんが、書けないことは実生活でやはり不便。木工技能のように、視覚や力覚などに働きかけることで書字技能を高められるのでは、と考えました」。まず障がいがない人の書字の様子を録画し、運筆は力覚装置に記録。学習する子供は、映像や音声で文字を確認しながら、手指に取り付けた力覚デバイスに導かれることで、正確な書字動作を疑似体験します。

「VRを活用した技能向上は、競技スポーツなどで導入されていますが、教育の世界ではほとんど行われていません。VR技術に耳や手からの情報を加えて理解を促すという新たな書字指導は、画期的な効果を生み出すのではないかと考えています」。仮想の世界と現実の感覚を融合した刺激を与えることでイメージ化を図り、技能向上を狙う橋爪教授の研究。今後、さまざまな分野で注目を集めていきそうです。

診断 (Ai) からみる認知症

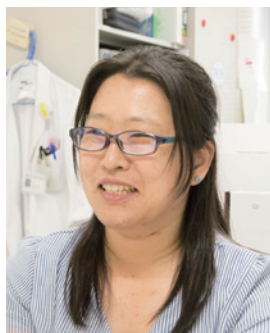


海馬

認知症あり

解剖や検査を通して
遺体の死因を究明
Aiを活用した研究も真相の解明に加え
遺族の不安も緩和

テレビドラマでは、殺人事件の現場に法医学者が駆け付け、警察官とともに事件を解決—なんてストーリーも少なくありませんが、木村助教は「視聴者を惹きつけようとするドラマと現実とは少々違います。捜査に同行するようなことも実際はありません」と笑います。死因に事件性がある場合、警察の依頼に基づいて死体を解剖するのが司法解剖。それに対し、事件性はないと判断されたものの、死因の究明などを求めて行われるのが新法(調査)解剖です。昨年、木村助教が携わった解剖は約150件。島根県内は、山間部で独り暮らし



PROFILE

医学部 医学科

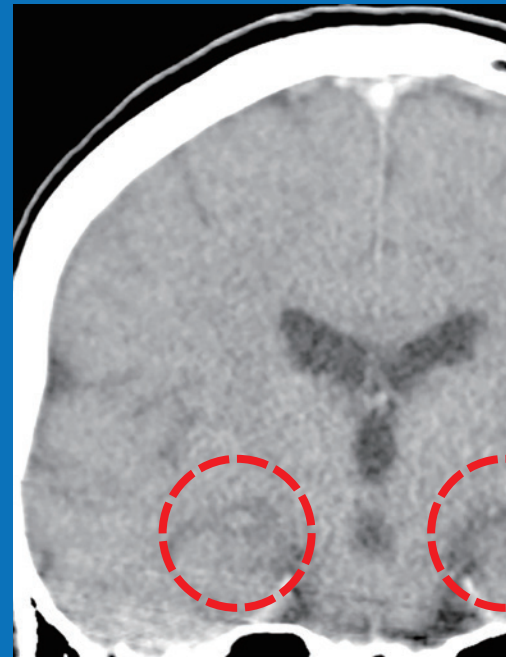
木村 かおり 助教

きむら

アメリカの大学で生物を専攻していたのですが、帰国する頃、監察医が主人公の小説にはまっていたのを機に法医学の道へ。死に至る過程をつまびらかにできた時にはやりがいを感じます。ただ遺体子どもや赤ちゃんの時は、子を持つ母として非常に胸が痛みますね。

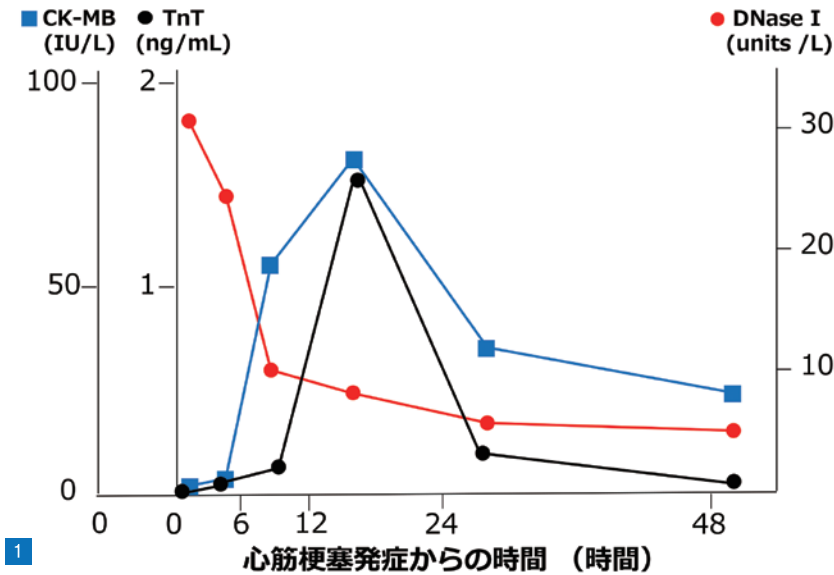
近年、人気ドラマや小説のテーマになることも多い「法医学」。犯罪捜査や裁判などの過程で必要とされる医学的な課題を研究したり、科学的な判断を示したりする医学の一つです。医学科の木村かおり助教は、解剖や検査による死因究明に加え、死後画像診断(Ai)を活用した研究にも挑んでいます。

死後画像



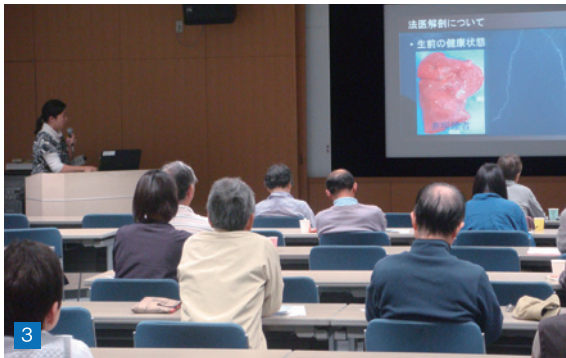
認知症なし

2



1

1.心筋梗塞発症後早期から、DNase Iの上昇がみられる。活性は2時間と、従来の心筋梗塞のマーカー、クレアチニンキナーゼMBやトロポニンTと比較して、早期に上昇することから、心筋梗塞の有用なマーカーであることが示唆されている。2.認知症あり、なしの方のCT画像の比較。認知症の際には海馬に萎縮がみられる。3.市民向けの島根大学サイエンスカフェで、法医学者の仕事について講演する木村助教。



3

をしていた高齢者が孤独死するケースも少なくなく、最近では新法（調査）解剖の割合が増えているそうです。「かつては警察も事件性がなければ解剖しないケースが多かったのですが近年、公衆衛生の向上や事件の再発防止への寄与を狙った法律が相次いで成立したことも要因でしょう。ご遺族の方々も気持ちを考えても、亡くなられた原因が分かった方がいいですね」と木村助教。

法医学における鑑定は解剖だけではありません。毒物やアルコールの摂取を調べる血液検査、解剖後にホルマリン漬けにした臓器の一部を顕微鏡で見る組織学的検査、水が関係する事故の時には体内に取り込まれたプランクトンの量や種類を調べることで死因を探るプランクトン検査など様々な検査を行います。「解剖自体は2、3時間で終わりますが、各種検査には非常に時間がかかるので、鑑定書を提出できるのは早くても3ヶ月くらいですね」。

遺体のデータを生かし 認知症患者の支援も

法医学の仕事は、死因の究明だけに留まりません。木村助教らは、急性心筋梗塞を発症後、約2時間でDNA分解酵素の活性が一過性に上昇することを発見(図1)。従来の血液検査より迅速に的確な診断を下すことができるため、早期の治療に結び付けることも可能にしました。生きている人の鑑定(生体鑑定)も行っています。例えば虐待された疑いがある子供の傷を診て、傷が出来た時期や原因などを探り、親の説明との整合性を調べるのです。

近年、認知症患者が徘徊中に亡くなり、解剖されるケースもあります。木村助教は遺体の髄液を抽出して、認知症の原因の一つとされるアミロイドβの量を調べ、死後画像診断(Ai)で得た海馬の萎縮具合との関連性も調べています(図2)。「生きている人の場合、髄液検査は患者の負担が大きいです。海馬の大きさはCTで簡単に測れます。萎縮の程度によって、徘徊による事故の危険性を警告できれば悲しい事故を少しでも減らすことができますのでは、と考えています」。Aiで得られた遺体の歯の情報や数値データ化し、生前のレントゲン画像などと照らし合わせて個人識別するソフト開発も共同研究中です。

複雑な噴霧燃焼の現象を シミュレーションで解析 燃焼の効率化目指す

バーチャルエンジンで
噴霧燃焼を可視化

毎日何気なく運転している車ですが、そのエンジン内では非常に複雑な物理現象が起こっています。適度なエネルギー密度と運びやすさが利点の「液体燃料」は、エンジン内で高速に噴射し、細かい霧状にされます（「微粒化」）。微粒化することで表面積を増やし、「蒸発」や「混合」が起きやすくなるのです。エンジン内の噴霧燃焼は長年、車や航空機などで実用化されていますが、複雑な現象が高スピードで瞬発的に発生するため、詳細なメカニズムについてはいまだ解明されていません。

そこで新城准教授らは、気体や

自動車や航空機、ロケット、発電用ガスタービンなどは、エンジンに送り込まれた液体燃料が酸素と混合して反応して起こる「燃焼」を動力にして動いています。この複雑な物理現象が、「噴霧燃焼」です。総合理工学部の新城淳史准教授は、従来困難だった噴霧燃焼現象のモデル化を実現、燃焼の効率化も目指しています。



PROFILE

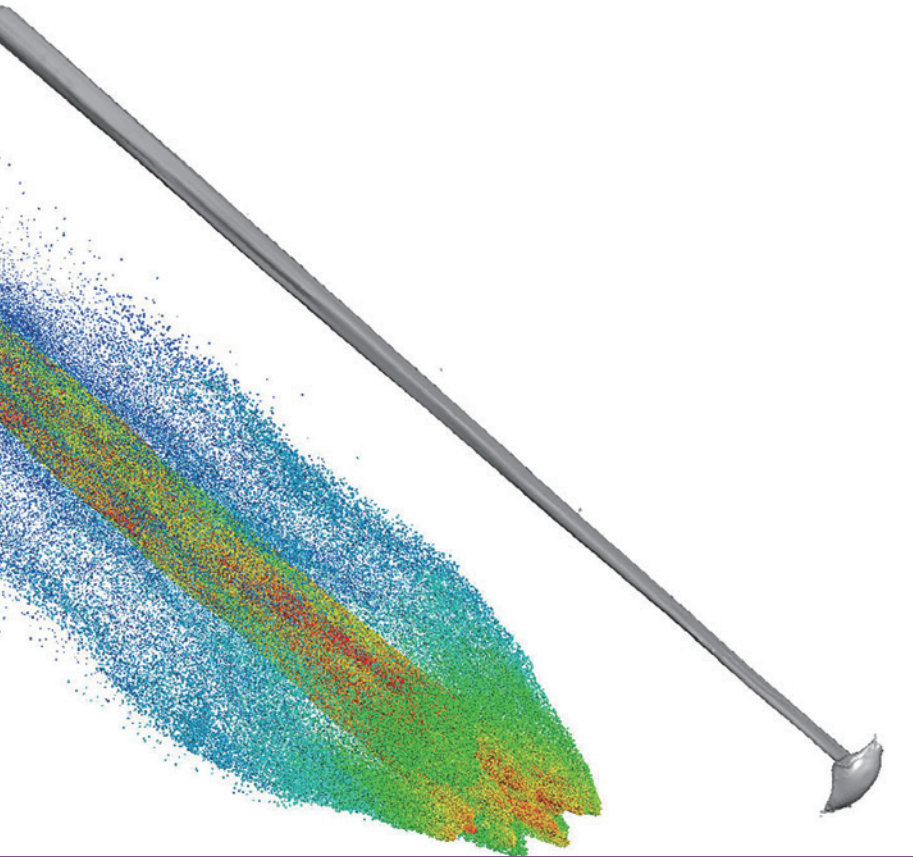
総合理工学部 機械・電気電子工学科

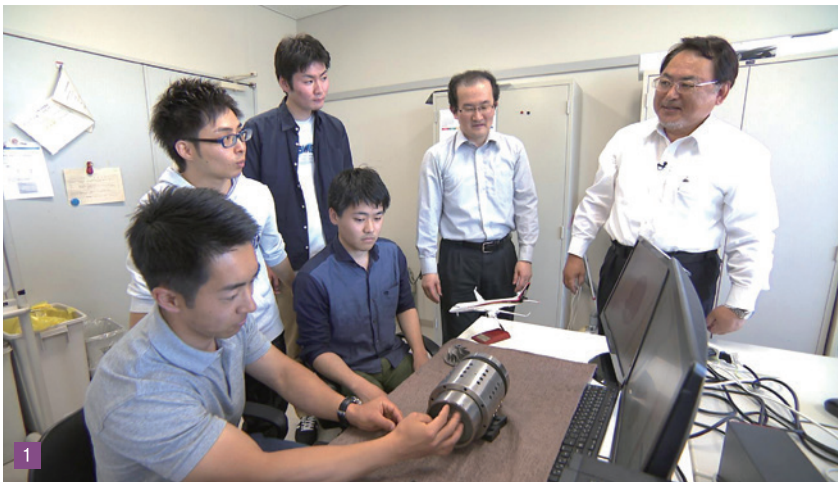
新城 淳史 准教授

しんじょう じゅんじ

飛行機が大好きでパイロットを夢見ていましたが、目が悪くてジェットコースターも苦手なので、作る方で関わろうと航空宇宙工学の道へ。東大卒業後はJAXAで10年以上、ロケットや飛行機エンジンの噴霧燃焼を担当。メカニズムの解明を試みて、大学研究者の道に転身しました。

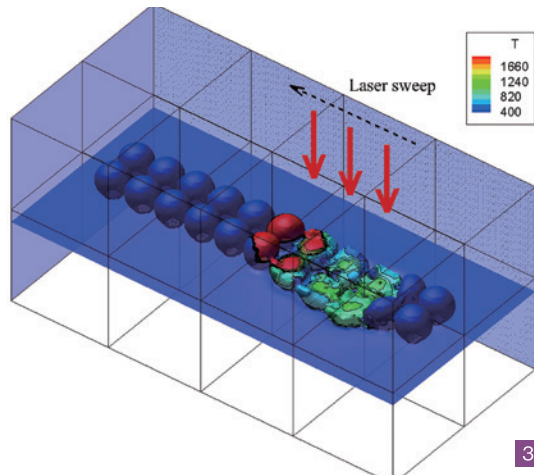
Liquid core



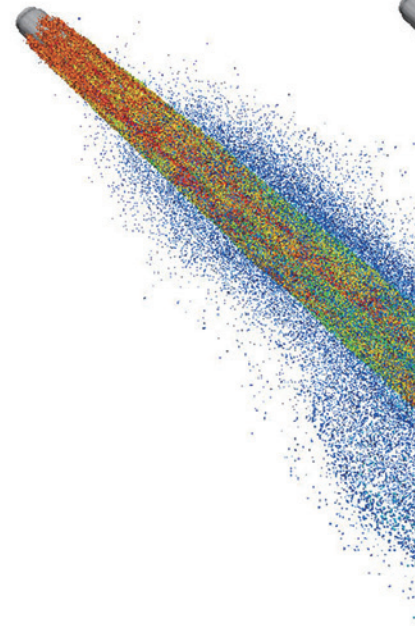


提供：TSK山陰中央テレビ

1. 昨年からスタートした、地元企業クラスタSUSANOOや学生が一緒になって、動くジェットエンジンを作る取り組みの様子。2. 自動車のディーゼル噴霧の様子。コンピュータ上でバーチャルのエンジンを再現し、一部分を切り取ったもの。3. 積層造形(金属3Dプリンティング)におけるレーザー加工シミュレーション。このようなシミュレーションや金属の均一的な凝固手法の開発は、次世代たたら協創センターの重要なテーマ。



Spray



液体などの流体力学に用いられる方程式と解き方をスーパーコンピュータに教え、シミュレーションによる解析を試みました。コンピュータ内にバーチャルの自動車エンジンを作って、ディーゼル噴霧を模した高速液体噴射を再現。液体が空気に衝突して先頭部が巻き上がる様子や、液体が分裂して糸状の構造を作る様子、さらに水滴のような二つの液滴が生成される様子などを明らかにしたのです。「これまで、どんな噴射スピードや角度、燃焼器の形であれば、効率的にエネルギーを生み出せるかは分かっていませんでした。バーチャルなシミュレーションによって微粒化の様子やスピードが可視化されたことは、効率的な燃焼方法の開発につながっていくと考えています」と新城准教授は話します。

エネルギー問題改善や 金属材料研究にも寄与

昨年、名古屋大学、宇宙航空研究開発機構との共同研究で、「微粒化」現象を国際宇宙ステーションの無重力環境下で実験。重力によ

る加速効果を排除した状態で、液滴が生まれ出る物理現象を解明しました。さらに微粒化モデルを前述のシミュレーションに取り込むことで、低コストで高精度の噴霧燃焼の予測も可能に(図2)。既に国内大手自動車メーカーでの研究開発にも採用され、今後は航空エンジンメーカーへの供与もスタートする予定です。「今までは試作して実験することでした。データが得られなかったのに対し、高精度の燃焼を計算で予測して試作できるのでメーカーもコストダウンできます。最終的には世界全体の環境エネルギー問題の改善にもつながると期待しています」。

産官学連携で、世界トップレベルの金属材料研究開発を行う「次世代たたら協創センター」にも、熱流体シミュレーションの立場から貢献(図3)。「例えば航空エンジン用の耐熱合金は従来、どのように凝固していくか分かっていませんでした。しかし凝固のあり方は合金の性能にも関与します。液体と気体の噴霧燃焼シミュレーションを、液体と固体の溶融凝固にも活用することで高精度の素材生成のヒントを得られれば」。新城准教授らが生み出したシミュレーション技術は、今後さらなる分野やレベルでの解析にも繋がります。

島根大学のココがすごい!

特色ある教育 4

今回紹介するのは… **夏季地域医療実習**

地域医療への理解を深める

夏季地域医療実習

島根県の中山間地や離島等、過疎地域においては、医師不足をはじめ医療の確保が深刻な問題となっています。島根大学のみならず全国の医学生に島根の地域医療に対する理解を深めてもらうことを目的に、平成20年度から島根県とともに実施しているのが、地域医療実習です。

地域医療の現場で活躍できる医師に

夏季地域医療実習は、地域における医療及び公衆衛生活動に対する学生の動機づけを行うことを目的に、平成20年度より島根大学と島根県の共催で実施しています。特に、島根県の中山間地や離島の過疎地域では、慢性的な医師不足が深刻な問題となっていることから、まずは興味をもってもらうことで、将来的な医師確保に繋がればと考えています。実習の特徴としては、希望する医学生であれば、大学や出身を問わず受け入れています。島根県内を7つの圏域に分け、それぞれの地域に特徴のある「地域医療」を体験することが出来ます。

私が担当しています!



竹内 俊介 所長

松江市・島根県共同設置松江保健所

主体的な取り組みが気付きのきっかけに

学生が7つの圏域の医療機関が作った実施計画書を見て、主体的に実習先を選択でき、積極的に取り組みます。「将来医師として働くイメージができ、非常に勉強になった」、「地域医療の理解も深まった」、「などの声が寄せられているほか、現場の医療機関からも好評を得ています。学生にとって、実際に「地域医療」の一部を体験することは、自分自身が将来どのような医師になりたいか考える貴重な機会です。そこで、地域の中心核病院や診療所、地域医療に関する



多職種との連携、地域住民やボランティアとの交流等が行えるよう、地域の実情に応じて内容にも様々な工夫が凝らされています。この実習が学生にとっては、地域の実情を知り、将来について深く考える大切なきっかけになっています。



島根大学では、学生が主体的な学びを通じて幅広い知識、広い視野、総合的な判断力を身につけ、人間への理解を深めるとともに、豊かな世界観を育むことを目的とした、様々な特色ある教育プログラムを展開しています。今回は、島根大学が島根県とともに実施している地域医療実習を紹介します。



習うことが少ない「その地域特有の医療」を実際に体感することができずし、将来島根県の医療に従事するにあたって、地区ごとの特性を知っておくことはきつと役に立つと考え、地域医療実習への参加を決めました。実習先はいくつかある中から、個々の関心や目的に応じて希望を出すことができます。私は地元の益田圏域の病院へ実習にいきました。



各地域特有の医療を 低学年のうちから体験

将来は島根県で

医師として働きたいと考えています。普通の大学の授業では

授業を履修しています!



田原 遥さん
医学部
医学科 1年

根本 卓也さん
医学部
医学科 4年

地域ならではの医療に触れ 様々な交流の中で学ぶ

単なる、病院実習ではなく、地域医療実習であることが、この実習の一番の特長だと思います。医学生が行う病院実習というと、病院の中に限って活動を行うことがほとんどですが、この実習では健康講話や地域住民との交流も含まれている場合があります。

僕は今年で2回目の参加です。昨年の隠岐・島前地区の実習では、地域の健康講話に参加させていただき、今年の飯南地区では地域のサロンの参加させていただき、飯南病院に関する歴史、地域医療を考え支えてきた地域の方などのお話を聞



地域への理解の深まりが より良い医療に繋がる 可能性も

くことができました。医療に関する学びはもちろんです。その背景にある暮らしぶりなども知ることができたことは、大きな収穫だったと感じています。

実習を通じ

て、各圏域への理解が深まりました。暮らしの面で言えば、生活圏はどの範囲まで広がっているのか、大きな病院にかかるとすればどの地域へ向かうのかなど、病院間の繋がりも見えてきました。また、様々な病院に行ったことで、地域の病院と大学病院では、疾患の構造が異なることも理解できました。地域の方が何を大切にして生活をしているかを知ることができたので、それをきっかけとして今後、同じ地域に入るハードルが下がったように思います。将来、島根で働きたいという想いがより強くなりました。



社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 06

自動車ディーラー
採用担当

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、島根トヨタグループに勤務する村上さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

村上 亮介 さん

島根トヨタグループ
人材開発室 係長

島根県隠岐出身。法文学部社会科学システム学科歴史学コース(現:社会文化学科歴史と考古コース)で西洋史を専攻。2003年3月に卒業し、同年4月に島根トヨタグループへ入社。営業職として10年弱勤務したのち、2015年より人材開発室へ配属され、採用担当に。採用業務と並行し、新人社員の研修やサポート業務もおこなう。

高校・大学でセミナーも自身の経験を交えながら「働くとは」を伝える

現在の所属先であるトヨタカローラ島根のショールームで、爽やかな笑顔で迎えてくれたのは、島根エリアの採用業務を担当する村上さんです。普段は、営業職や事務職の新卒採用業務に携わり、学生一人ひとりの面談や、採用試験での面接官も担当しています。また、就職活動に関するセミナーにも参加し、高校や大学でキャリアに関する授業の講師を務めることもあります。

採用担当として様々なセミナーに参加し、企業PRをしています。が、実は会社の概要説明はほとんどしていないそうです。「最も重要視しているのは、価値観が共有できるかどうか。個々の能力は選考段階で見ることであって、まず一番大切なのは会社の理念や考え方に共感できる人かどうかなんです」。その理念や価値観を伝えるために、いつも村上さん自身が実際に経験したことを例に出しながら、働くことの意味について、学生たちに伝えるように心がけているそうです。

島大にある各学部の
話題を毎号何かひとつは
載せてほしいです。

(愛知県岡崎市・40代男性)

地域と協力している
学生さんを見ると
安心します。

(島根県出雲市・60代男性)

進路について考えています。
目指す方面で働いておられる方の
話題は参考になります。

(島根県江津市・10代女性)



新人社員の研修を行う村上さん。研修だけでなく、新人社員の業務のフォローも行っています。

新人社員の育成も村上さんの重要な仕事のひとつです。「即戦力というところではいいですが、車は大きな買い物。まったく知らない人から簡単に買う人はいません。まずはお客様との信頼関係を作るところから始まります」。島根トヨタグループでは、入社後、宿泊型で1ヶ月間じっくりと研修を行います。その後各エリアに配属されますが、1年目は月1回、その後も定期的に県内の各店舗から集まって研修を実施しています。村上さんは、そ

の研修で講師を担当しています。「3年間義務教育」という名の通り、まずは売上よりも営業スタッフとしての基礎をしっかりと作っていくんです」。

採用担当になってから本を読む量が増えたという村上さん。現在、仕事に関する本を年間200冊ほど読んでいます。セミナー等で大学生や高校生に伝える際に、人によってどのような話題なら興味を持ってもらえるのか、本から得た知識のどれをアウトプットしていくとよいかを常に考えているそうです。「これは、今思えば、大学時代にやってきたことが生きている部分でもありますね」。

採用担当者に惹かれ トヨタへの入社を決意 同じ立場に立つ現在

「あまり真面目じゃなかったんです」と苦笑いする学生時代、村上さんは歴史学研究室で西洋史を学んでいました。「研究室では、とにかく史料や文献をたくさん

読んできました」。4年生の卒業論文を執筆の際には、史料を読み込んでそれを考察し、言語化するという一連のプロセスを経験しました。自身が持つ様々な知識の中からその人に合った最適なエピソードを抜き出して伝えることと同じです。

同級生が就職活動を始める中、自分もとりあえず行ってみようと思った合同説明会で、現在の職場に出会いました。「正直な理由ですけど、スーツが着れるかっこいい大人になりたいと思って、スーツの人がいるブースを探したところ、偶然見つけたのが島根トヨタグループだったんです」。興味がある業界というわけではなかったものの、当時の採用担当者の話を聞くうちに、一瞬にして話に引き込まれたといいます。「この人と一緒に働きたい、こんな大人になりたい」と思って、採用試験を受けることに決めました。村上さんが採用試験を受けたのはこの一社のみ。そして、入社が決まったのです。

合同説明会での出会いから十



インターンシップフェアの様子。学生に向けて自身の経験を話します。

数年。現在は村上さんが同じ位置にたつて、学生たちと向き合っています。「ありがたいことに、若い人たちに向けて、仕事やキャリアについて伝える機会をいただくことが増えました。私の話を通じて、何かヒントが見えたり、共感してくれた学生さんは表情が変わるんです。その顔が見られた時はこの仕事にやりがいを感じますね」。学生の時にこんな話を聞けたら良かったと思ったことが、実際に自ら実現できていることに喜びを感じつつ、自らのストーリーを交えながら、学生たちに働くことについて伝えていきます。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.41に
寄せられた声
をお届けします。

若者が農業をする姿、
これからの後継者となることを
期待しています。

(島根県隠岐郡・60代男性)

「ソメイヨシノ」の
ゲノム解明、すごい研究だと
思いました。

(島根県隠岐郡・60代男性)

しまだいいり

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

オックスフォード大学から来日 リード教授による高校への出張講義



7月18日(木)、オックスフォード大学に所属し超耐熱合金研究の世界的権威であり、次世代たたら協創センター長のロジャー・リード教授が来日し、松江市内の高校(松江南高校・松江北高校・松江東高校)で出張講義を行いました。講義は30分間英語で行われ、オックスフォード大学の紹介、日本や島根との関わり、金属や合金の重要性、日本刀鍛錬技術の素晴らしさ、合金の多様性や価値などについて、専門的ながらも易しい表現で説明されました。リード教授は、若者たちが科学分野を目指すことの重要性を強調し、世界をより良く変えていくための力になってほしいと締めくくりました。地元の高生たちに大変貴重な経験になったようです。

TOPICS

2

共同研究のさらなる進展を 島津製作所上田社長が医学部を訪問



この詳細はP5-6でも紹介しています

7月16日(火)、株式会社島津製作所の上田輝久社長ほかが訪問し、現在、共同研究を進めている「軽度認知障害における介入アプローチと生体マーカーに関する探索的検討」について進捗報告を行いました。また、過去に共同研究を行っていた新生児マススクリーニングの検査現場も見学、最後に服部泰直学長、井川幹夫病院長らと意見交換を行いました。今後ともこの共同研究が一層進展することが期待されます。

TOPICS

3

農業指導者育成プログラム支援に携わる JICA青年海外協力隊としてジャマイカへ派遣



自然科学研究科博士前期課程2年の橋本友太さんが、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊として2年間ジャマイカへ派遣されることとなり、服部泰直学長を表彰しました。現地では、幼稚園から高校約70校で子供たちに環境に配慮した農業を教えることになっています。出発を直前に控えた橋本さんは、「子供たちに早い時期から栽培方法を教えることで、現地の活性化に貢献したい」と抱負を述べました。

卒業生の和田さんの活躍うれしいですね。
このような方がどんどん島根で
活躍してくださることを願っています。

(島根県浜田市・60代男性)

いろいろな地域で社会参加
している学生さんを
もっと紹介してください。

(島根県松江市・50代女性)

学生さんが頑張って
おられるのを知れてうれしく
思います。

(島根県松江市・70代女性)



TOPICS

4

趣向を凝らした催しで学部の魅力をもPR オープンキャンパス2019を開催

島根大学松江キャンパスでは、8月1日(木)に法文学部・人間科学部・総合理工学部、8月2日(金)に教育学部・生物資源科学部、出雲キャンパスでは8月4日(日)に医学部でオープンキャンパスを実施し、各学部の特色を高校生に伝えるために、趣向を凝らした催しを展開しました。

また、保護者対象企画では、本学の「教育」「入試改革」「学生支援」、「キャリア教育」、「グローバル教育」について、担当教員からの説明と、学生による学生自身の大学生活についてプレゼンテーションを行いました。

例年オープンキャンパスでは、大学生が昼休みの時間を利用して、本学を知っていただくための催しを企画しています。学生相談、キャンパスツアー、地域の特色を知ってもらう体験型のブースなどの恒例の企画に加えて、今年度は事前に広報動画の配信、ラジオの録音放送、ファッシュンショー、保護者の方に受験期から大入学後1年以内の学生の気持ちの変化を伝える企画等、初めての企画にもチャレンジしました。

出雲キャンパスでは、10月20日(日)にもオープンキャンパスを予定しています。

TOPICS

5

島根大学本庄総合農場産の生食用トマトが原料 新しいトマトジュース販売開始



本庄総合農場では教育活動(実習)の一環としてトマトを栽培し、2017年より、本農場産の加工用トマトを日南トマト加工株式会社で、無塩の瓶詰トマトジュースに加工していただき、販売しています。今回は、新たに生食用トマト品種「麗夏」でのトマトジュースを製造、販売することになりました。トマトジュースの容量は720mlで、生食用は1200円(税込)、加工用は1000円(税込)です。

TOPICS

6

第10回分裂酵母国際会議で優秀ポスター賞を受賞 ノーベル賞受賞者から表彰状を授与

7月14日(日)〜19日(金)にスペイン・バルセロナにて開催された第10回分裂酵母国際会議において、鳥取大学連合農学研究所(島根大学配属)博士課程3年の田部卓磨さんが優秀ポスター賞を受賞しました。本賞は世界各地の研究者がポスター発表した約160題の研究成果の中から優れた発表16題に贈られたものです。Paul Nurse 博士より自筆サイン入りの表彰状を受け、記念撮影していただきました。

読者の声
Voice

広報しまだい
vol.41に
寄せられた声をお届けします。

就職について取り上げてほしい。
卒業生の活躍はとて
励みになります。

(広島県世羅郡・50代男性)

毎回楽しみにしています。
子どもの学生生活を
思い浮かべながら読んでいます。

(島根県松江市・70代女性)

アメリカ・韓国・中国の大学から計6名が参加
島根大学サマースクール2019を開催



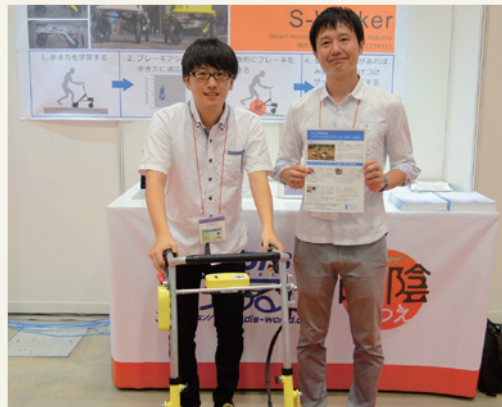
7月8日(月)～17日(水)に「サマースクール2019」を開催し、本学が協定を締結しているアメリカ・韓国・中国の大学から計6名の学生が参加しました。研修期間中、サマースクール生は午前中に日本語講義を受講し、午後は松江城や出雲大社などの訪問に加え、茶道体験や和菓子作り体験など地域の歴史と文化を肌で体験しました。また、島根大学のキャンパシーションパートナーとの交流やクラブ活動を体験することで島根大学生と積極的な交流を行い、ホームステイを通じて地域の方々々と交流を深めることができました。

サマースクール生は今回の成果として、研修中に感じた日本と自国との価値観や考え方の違いについて全員が日本語でプレゼンテーションを行いました。体験した異文化をもとに生まれた考え方を積極的に発表する学生の姿に、発表を聞いた島根大学生や教職員・地域の方々から大きな拍手が送られました。

島根大学は、世界と地域に開かれた大学として、今後もこのような活動を通じて協定大学との連携をより一層深めてまいります。



「DISのあるごき山陰 まつえ」に出展
ブレーキアシスト歩行車を紹介



8月7日(水)～8日(木)にくにびきメッセで、DIS主催のICT・ICTの総合イベントが開催されました。本学からは、総合理工学部知能情報デザイン学科の廣富哲也准教授が出展し、歩行機能の低下した高齢者のより安全・安心な移動を支援する自動アシストブレーキ付き歩行車S-Walkerを紹介しました。展示ブースには、県内外の多くの企業や自治体の方々にお越しいただきPRできました。

スツクリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。

■神在の里の取り扱い・お問い合わせは

島根大学生協同組合

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-32-6240
https://www.shimadai.coop/

新聞の折り込みで WEB サイトで フリーペーパーで

お仕事見つけるメルット

情報発信を通じて「働きやすい街づくり」に貢献します

メルット 求人 検索

株式会社メルット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

広告募集

広報しまだいでは、企業・団体様等からの広告を募集します。

島根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

読者の声
Voice

広報しまだい vol.41に寄せられた声をお届けします。

医学部附属病院の診療科の記事を
毎号特集してほしい。
(島根県雲南市・60代女性)

島大総合博物館に行きましたが、とても面白かったです。
(島根県松江市・60代男性)

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

女子バスケットボール部



1. 現在プレイヤー6名、学生コーチ2名、マネージャー2名の計10名。2. 普段は試合形式の練習ができないため、定期的に松江市内の高校との練習試合を組むなど、モチベーション維持に努めています。

団結力と粘り強いプレーで秋の大会に挑む

少数精鋭で週に5回の練習に励む女子バスケットボール部。「部員が少ない分、学年関係なくみんなの意見に耳を傾けて、モチベーションアップに繋がる練習ができるように工夫しています」とキャプテンの島田さん。年6回の大会のうち、特に4年生引退の区切りとなる秋のインカレ予選に照準を合わせ、外部の先生とも相談しながら練習メニューを組んでいます。今年はプレイヤーの身長が平均的に低いため、特にリバウンドを重点的に練習しています。秋の大会に向けて、厳しい練習をこなしているメンバーだからこそできる、最後まで諦めない粘り強いプレーが期待されます。



臨床で役立つ医療手技を学ぶ

学生同士が医療手技を学び、教えあうことを目的に誕生したSCOP。臨床実習に向けて身につけるべき医療手技の実践を中心に、シミュレータを使った一次救命処置の練習などを行っています。今年度から新たに4年生の講義や試験内容に合わせた「復習会」を実施。部長の原田さんは「授業で学んだ知識を定着させるとともに、座学では実践できない手技を学ぶ機会を設け、臨床の現場で少しでも役立つような知識や技術を得られたら」と実施の経緯を話します。今後は、知識や技術を身につけるだけでなく、それを地域の方に還元できるような場作りもしていきたいと抱負を語ってくれました。

出雲キャンパス

SCOP

(Skill Conquest and Output Program)



1. 活動は月に2~3回。医学部附属病院内にあるクリニカルスキルアップセンターで活動しています。2. 毎年、全国医学生BLS(1次救命処置)選手権大会にも参加し、上位入賞を果たしています。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■「島大会員のつどい」について

Q「島大会員」とは？

島根大学支援基金へ5,000円以上ご寄附いただいた方はどなたでもご加入（永年会員）いただけるもので、ご寄附額に応じた様々な会員特典をご用意しています。

Q「島大会員のつどい」とは？

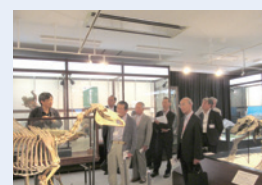
島根大学支援基金を通じて本学を応援してくださる島大会員の皆さまと絆を深めていくことを目的として、「島大会員のつどい」を開催しています。今年度は6月7日（金）に「第3回島大会員のつどい」を開催し、昨年度リニューアルオープンした「総合博物館」のガイドツアーと支援基金から支援を受けている学生との体験発表交流会を行いました。総合博物館のガイドツアーでは、所蔵品の化石や骨格標本などの本学のお宝を総合博物館副館長の會下和宏教授の解説によりご覧いただきました。続く支援学生との体験発表交流会では、学生が「地域でのインターンシップを通じて人とのつながりを学んだ」「留学を通じて新たな目標を見つけた」といった体験を発表し、交流をお楽しみいただきました。



全員で記念撮影



支援学生との交流会のようす



會下教授（一番左）の説明による博物館見学

■支援学生からの感謝の声

平成30年度夢チャレンジ奨学金受給者

この度は夢チャレンジ奨学金に採用していただき、ありがとうございました。夢チャレンジ奨学金を受給したことで経済的負担が減り、資格取得や留学に挑戦するなど学習意欲を向上させることが出来ました。そのため、資格取得の勉強に集中し、漢字検定と韓国語能力試験に合格しました。また、高校生の頃からの夢であった韓国での短期語学留学に参加し、1ヶ月間の韓国での生活の中で日本とは異なる様々な歴史や文化に触れるとともに、韓国語の能力を伸ばすことが出来ました。このような充実した日々を過ごせたのは奨学生として採用していただき、学業に集中できる環境を整えることが出来たからです。島根大学の教職員の方々、卒業生、在学生の保護者の方々や企業等、学生を経済的な面から支援するという趣旨に賛同し応援して下さる方たちに感謝するとともに、これからもこの感謝の気持ちを忘れることなく勉学に励みたいのです。



支援基金と島大会員についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。なお、お電話でのご請求も承っております。



TEL 0852-32-6015

<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/> 支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただき仕組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和元年5月16日～令和元年8月15日までに年度内累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま（五十音順・敬称略）

法人等からのご寄附

株式会社グローバル

個人からのご寄附

浅田健太郎	東 秀一	飯野修二	石橋 剛	伊藤嘉彦	今西正樹	岡信 章	尾添邦廣	小幡美香	尾原美和子
勝部毅弘	加藤巡一	鎌田益幸	川路澄人	河添達也	熊澤 修	小林 茂	小林祥泰	佐貫文紀	佐野千晶
高橋 順	田辺義博	出口 顕	永森忠嗣	能美龍雄	濱田 太	平塚貴彦	廣瀬昌博	水野 薫	宮永龍一
棟石 均	森岡 成	山口 清	山根真明	横田正幸	吉川 進	吉田和信	吉見 顕		

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

日ごとに涼しさが増し、秋の深まりを感じられる季節となりました。今号の特集1では、今年度開学70周年という節目を迎えた本学の歩みを取り上げました。編集を通して本学の歴史を再認識する良い機会となり、スタッフ一同感慨深いものがありました。特集2では本学の認知症に関する共同研究について、高齢化社会の日本における社会実装に向けた先進的な研究・開発に携わる関係者の姿を紹介し、特集3では学生と地元高校生、企業が一体となり地域のニーズに応えようと取り組むプロジェクトを取り上げました。広報しまだいでは、このような現代社会や地域が抱える課題に対し、教育・研究活動を通して多面的にアプローチしている学生や研究者の姿をこれからも紹介して参りますので、今後ともどうぞご期待ください。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、島大農場で収穫した「トマトジュース(加工用トマト)」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和元年12月6日(金) 必着





GLOBAL

量産工場へ 高機能治具で モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>



「故郷(やすぎ)で
生きていく」

三人の安来ストーリー

島根県安来市
定住 PR ムービー



NSK
日本システム開発
〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175
<https://www.nskint.co.jp/>

しまねで
エンジニアを
目指しませんか?

こちらからもアクセスできます

一おしたへ、未来へー
地域創造企業

おかげさまで35年目
SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーと一緒に輝きます。
<http://www.showa00.co.jp/>

株式会社 昭和測量設計事務所
建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事
あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町832-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

みらい、
つくる、
まもる。

市ヶ谷
池袋
渋谷

詳しくは >> <http://www.hiroshima-parker.co.jp/>

株式会社日本パーカーライジング広島工場
NIHON PARKERIZING HIROSHIMA WORKS CO.,LTD

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなが
まもろう!

山陰合同銀行

YANMAR

ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品
鋳物素材~加工完成・組立一貫生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部)
〒690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355

(甲賀事業部・鋳造技術センター)
〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

~よりよい環境づくりを目指して~

株式会社 コスモ建設コンサルタント

〒699-0502 島根県出雲市斐川町荘原 2226-1
TEL:0853-72-1171 HP:<http://cosmoc.jp>
土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント

若者と大人が出会う

しまね 大交流会 2019

11.16 SAT
11:00 — 16:30
会場:くにびきメッセ

インターン
シップ紹介!

大人向け
セミナー
開催!

高校生向け
セミナー
開催!

大学・高専
多数出展!
学びを知ろう!

企業・自治体
多数出展!
働く場を知ろう!

未来へ今を 飛び越えろ!

200ブース 2600人超が大集結!

主催:しまね大交流会実行委員会・島根大学
共催:島根県立大学・島根県立大学短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県・島根県教育委員会
協賛:中海圏域就業支援連携事業推進協議会(松江市・米子市・安来市・境港市)

お申し込み方法

下記のサイトか、QRコードから事前にお申込みください

https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/project02/2019se_entry/

■島大・県大・県短・松江高専・ポリテクカレッジ島根から会場までの連絡バスを運行します。■高校等で、学校単位で参加される場合は一括申込を承ります。問合せ先までご連絡ください。■障がい等により配慮の必要な方は、問合せ先までご相談ください。



問い合わせ先

しまね大交流会実行委員会事務局
(島根大学地域未来協創本部)

TEL 0852-32-9814

エル・エス・シー・アール・シー
✉ lsrc@riko.shimane-u.ac.jp

地(知)の拠点